



第69回
 “社会を明るくする運動”
 作文コンテスト
 福島県推進委員会
 優秀賞作品

未来へつなげて

小野新町小学校 6年 吉田莉桜

世の中には、さまざまな犯罪がある。殺人や強盗、誘拐、身近なことだと不審者もそうだ。殺人や誘拐で、小さな命や他人の人生が奪われる事件も日々起こっている。初めは優しい人でも何か起きることで人格が変わってしまい、犯罪に手を染めてしまうこともある。そんな人たちが世の中からなくすためにはどうすればよいのだろうか。

私は以前、万引きをしていて人を見かけたときがある。その人はお店の人に注意されていた。しかし、もしそのとき、お店の人も周りの人もその行為を止めて注意していなかったら、その人は今頃どうなっていたら。簡単に万引きできたことで、行動がエスカレーターし、強盗や盗みの常習犯になっていったかもしれない。では、万引きをしてしまったこの人だけに問題がある

かというとき、私はちがうと思う。このとき、見て見ぬふりをした私は、犯罪の一步を踏む手助けをしてしまったともいえる。そう考えると、「明るい未来へつなげる」ためには、止めることが大切だと思った。気づいたときに声をかけたり、周囲に知らせたりすることが、うっかりやってしまった人はもちろん、周囲の人をも助けることになる。

私は、罪を犯す行為はしていない。しかし、「非行」を「人のよくない行為」とするのであれば、私の行動の中にも非行があると思う。例えば、うそをつくことだ。私は、先生に怒られることがいやで、友達と口裏を合わせ二人でうそをついたことがある。結局うそがばれ、先生に怒られて初めて、うそをつかなければよかったと後悔した。罪を犯すことと、うそを

つくという行為には、共通点があると思う。それは、「一人でなければ怖くない」、「先のことを考えない、その場のしのぎの考え」ということだ。私は、友達とならうそをついても大丈夫だという、変な自信があった。そして、うそがばれた後のことなど考えてもいなかった。罪を犯す人の中には、仲間意識から犯罪に手を染めてしまった人や、先のことを考えずにその場の軽い気持ちや判断で行動してしまっただ人もいると思う。犯罪を防ぐためには、普段からその場のしのぎの考え方をやめ、先のことを考えて行動したり、悪いことは悪いと言いつけることができる。友達関係を壊したり、生きている限り、うそをつかないで生活していくことは難しい。しかし、そのうそで悲しむ人はいないか、だますことにならないかなど、先のことを考えることができる。人を傷つけるうそをつかないよう、気をつけたい。

私は、万引きに対してだけでなく、他にも見て見ぬふりしたことがある。友達がきまわりを守っていないのを見てしまったときだ。学校には持ってきてはいけな

いものを持ってきた友達に注意をしようと思ったが、友達との関係が悪くなるのがこわくて言えなかった。また、きつい言い方をしている友達に注意しようと思ったときもあったが、自分もきつく言われてしまうと思うと言えなかった。いつもおんぴんに過ごそうとするあまり、悪いことを悪いと言えなくなっていたのだ。そんな自分はいけないと気付きながらも、変えられずにいた。

ある日、部活でなかなかうまくいかず、どうしようもなくつらいときがあった。このときの自分は、いやなことは流せないし、友達とおんぴんに過ごそうと思ってもできないし、もうどうすればよいかわからなくなってしまうていた。悩みを悩んで、部活の先生に相談したところ、しっかりと話を聞いてくれた。「自分の信じる道を行きなさい。」

今までのいやだった自分とはお別れし、好きな自分になることができた。きつと、今もどこかで犯罪が起きている。誰かの一言で人生が狂ってしまった人もいる。何かがつきつた人もいる。でも悲しいことばかりではない。私のように、ある一言でよい方向に変わった人もいるからだ。私にはこうして、一言の重みを知った経験がある。だからこそ、人生を狂わせる一言を言ったり、人格を変えてしまう行動をとったりするのでなく、救いの一言をかけられる人になりたい。そう意識する人が増えれば、前向きに考えられる人や人に優しくできる人が増え、明るい未来に一步近づくことになるのではないだろうか。

先生の一言で、私は前を向くことができた。おんぴんに過ごすだけではいけない。自分の意見を言うことが大事なのだと思えるようになった。この出来事を機に、私は、自分の意見をしっかりと伝えるようになった。